

## 永平寺の森の生き物たち (前編)

永平寺の森は広大な越前中央山地の北面にあり、スギ、ヒノキ植林やコナラ等の広葉樹林が広がっています。そのためタヌキやコゲラなど里山の樹林に生息する生き物が多く見られますが、クマタカの飛来やツキノワグマやカモシカなど奥山の動物も訪れ、谷や屋根伝いに伽藍の傍らまで降りてきたり、伽藍のスギ巨樹を利用するムササビのほか、伽藍や人工池といった人工的な環境を利用する生き物も見られます。

一方、林道沿いや草地には森林内と対照的な明るい環境が見られ、ミヤマアカネやヒメスギ、シマヘビなどの生息地となっています。また、豊富な降雨と急峻な地形から沢ができておりカワトンボ、タゴガエル、モリアオガエルなど止水環境を利用する生き物が見られます。

沢が流入する永平寺川は九頭竜川を経て、日本海につづく流水環境となっており、カワガラスやアジメドジョウなどの生息が見られ下流の中流域にはサクラマスやアユなど遡上してくる魚もみられます。



(左) カモシカ  
(右) クマタカ

※写真はイメージです

## 光を観る

今日は京善区の話をしてします。2年前に伝統的古民家集落の指定を受けました。福井型切妻屋根と土蔵が見所です。明治期に大火が有り、以降倉と家の建築ブームが起きたようです。

区内には桜川が蛇行して流れています。元来暴れ川で永年区民を苦しめてきました。川の改修とダムの完成で水害の心配は少なくなりました。狭い所に7つの橋が有り、7本の用水があります。用水の堰堤が魚の遡上を阻害していました。近年魚道が完成し、漁協の皆さん、サケ・マスの遡上させる会の皆さんの活動によって、少しずつ魚影が増えているようです。早く、子供の頃の川のようになってほしいなあ。

話変わって、京善の高齢化率は40%。30年後の日本の姿です。心配ご無用、皆さんいきいきとしていますよ。機会があれば野仏と水と古民家の里へ足を運んでみて下さい。



京善区伝統的古民家の案内図



## 歴史ノート

### 宝岸寺（曹洞宗）

松岡春日3丁目にあり、天龍寺開山した斧山宝鋤（ふざんほうとつ）は晩年松岡に宝岸寺と白竜寺の二寺院を建立してそれぞれの開基となった。

宝鋤和尚の閑居遷化の寺で万治2年（1659）松岡藩主昌勝公より五人扶持寺領十八石を寄せられた。享保13年（1728年）二人扶持に減じられた。

現在寺はきれいに本堂も新しく建立して、寺の前には子安地蔵が奉られ、子宝に恵まれますようにとお参りする人が多いそうです。私も孫を授かるようにと拝んだところ、2人の子供に恵まれました。裏庭がきれいにととのえられ、有名な人々の墓があります。



宝岸寺

## 歴史ノート

### 糠浦太郎右衛門の墓

松岡芝原1丁目に「牢屋（ろうや）の腰」という字（あざ）があり、その一隅に「糠浦太郎右衛門埋之」と書かれた石碑があります。

「牢屋の腰」とは、当時松岡藩の刑場と藩の牢獄（ろうごく）があった場所で伝説によるとこの石碑は現在の南越前町糠が松岡藩領だった頃、年貢の取立が厳しく庄屋である太郎右衛門が年貢の減免を幾度となく申し出したため捕らえられ処刑されました。村のために犠牲になったことを憐れみ、牢屋の一隅に石碑を建てました。

義民（正義、人道の為に一身をささげる民）として敬慕されてきました。



石碑「糠浦太郎右衛門埋之」

## 研修会レポート

### ガイド研修会を開催しました@参ろ一ど

去る6月29日（月）、ガイド研修を行いました。目的はボランティアガイドが案内する「参ろ一どウォーク」を企画するための勉強会です。

今回は旧永平寺口駅を出発し、東諏訪間の古墳、旧諏訪間駅、如意庵（寺本区）に立ち寄り、京善区の伝統的古民家や桜川を見学するルートを踏破。直線距離にして3キロほどですが、参ろ一どから寄り道して見学しながら歩き、およそ3時間、永平寺南地区の歴史や文化財について勉強しました。

ボランティアガイドが案内する「参ろ一どウォーク」は、秋ごろ開催予定です。



参ろ一どを出発する会員



京善区白山神社